



関係人口を育てる【市民活動支援】
2021
地域の新たな担い手育成プロジェクト

[全地域] 1

実施者

＜教員＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター 青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師、合同会社いもんだ）
 ※実施サポート 千葉工業大学新習志野キャンパス学生課

＜実施者＞ a. 合宿・週末ボランティア

千葉工業大学 工学部電気電子工学科 1年 薄、先端材料工学科 3年 木村
 創造工学部デザイン工学科 3年 木場、富田、松尾 計5名

b. プロボノ・スチューデント

千葉工業大学 社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室
 千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 鎌田研究室
 千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 1名、創造工学部デザイン学科 1名 計学生) 延べ24名、教員) 延べ8名

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 PT 会議（市民課／消防防災課／課農林水産課／商工課／観光プロモーション課／子ども教育課／企画財政課）、白浜中
 【企業等】ベケレの村、酪農の里、南房総市観光協会、みねおかいきいき館
 【市民団体等】白浜地域づくり協議会きらり、南房総市社会福祉協議会、大井区里山保全協議会

1. 背景・目的

南房総市では近年の著しい人口の減少、少子高齢化等の進行によって地域の活力の低下、地域で社会活動の担い手不足が深刻化している。一方国内の地方圏によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となるのが期待されている。そのような環境を活かして大学でも実践教育の場として積極的に位置づけ教育効果をねらった取り組みが増えている。このように地方圏で拡大する新たな地域側のニーズと都市部大学のシーズをふまえて、本PJでは南房総市の地域の担い手となる人材不足等の問題解決にむけて以下の3点を主な目的とした。

- ①都市部を中心とした大学生のボランティアやプロボノなど“新しい人の流れ”をつくり交流以上、定住未満の“関係人口として育てる”ことで地域の新たな担い手を確保、育成すること、
- ②農山村漁村の中に学生にとって実社会の求める人間力が育まれ学習の動機づけにつながる場をデザインすること、
- ③地域側の人材ニーズと学生ボランティアシーズの効果的なマッチングやボランティアマネージメント、支援環境づくりにむけた新たな手法開発を試みる（新規プログラム開発など）

2. 活動内容

(1) プログラム運営上の工夫と実施内容

a. SDGs チャレンジボランティア（合宿・週末）※図-2, 表-1
 プログラム設計では、科学者やエンジニアの卵である理系学生

にも、世界が2030年までに達成をめざす国連の定めた持続可能な開発目標（SDGs）への意識を高められるような工夫を行った。またSDGsの視点から南房総市が抱える問題、そしてそこから通ずる世界的な問題まで、自分ごととして何ができるのか考える機会を提供するよう企図した。特に現在南房総市において過疎化、少子高齢化によって深刻視される「防災」「農業」「市民活動」の支援の取り組みを中心に実施内容を構成した。

b. プロボノ（学生・教員）※図-3, 表-2

昨年までのPJを通じて教育的側面から明らかになったのは、学生の専門性を活かした地域貢献から得られる充実感、ボランティアのように「褒められる」「役に立つ」実感に加えて、「期待される」「必要とされる」実感を得られる点で特徴的で、その後における専門科目への高い学習のモチベーションに繋がることである。その一方で大学の地域貢献の側面からすると、南房総市にとっては地域貢献志向をもった学生関係人口をいかに育てていけるかが重要となる。そこで本年度は学生ボランティアOBOGや研究活動開始前の学生にできるだけプロボノに関わってもらい、高い学習のモチベーションを蓄え、南房総市をフィールドとしたその後の研究活動等につなげてもらえるような機会となるよう運営を心掛けた。

(2) 新規プログラム開発 ～防災の新たな担い手育成等について～

1) 背景と目的

近年地震や津波、防風防雨、渇水など自然災害多発時代に入ると、自治体は多様化している災害への対応を迫られている。その



表-1 SDGs チャレンジのプログラム

実施日	ボランティアの内容	参加者と役割
6/19-20、26-27	① SDGs チャレンジ！里山調査&竹炭づくりボランティア ・遊休ゆず畑の草刈り支援&竹林整備 ・間伐した竹を使った竹炭づくり ⇒計30h×2人=現地作業延べ60h	学生2人、里山の竹客整備、商品化を目指した竹炭づくりのスタッフ 【援農/市民活動支援】
1/17-19	② SDGs チャレンジ！遊歩道整備&援農ボランティア ・ガタッス、白浜地域づくり協議会団体紹介、防災学習 ・セビロード整備、加デコ有機農家さんお手伝い作業 ・加デコ有機農家さんのお手伝い作業、ふりかえり ⇒計30h×3人=現地作業延べ90h	学生3人、市民活動サポート、農作業支援者 【防災支援/援農】
2/7-9	③ SDGs チャレンジ！里山整備&竹あかり運営ボランティア ・ガタッス、きずな団体紹介、竹あかり保管庫DIY整備 ・竹あかり保管庫整備、竹あかりの点灯確認と追加制作 ・丸山地域竹林整備ほか、ふりかえり ⇒（教員プロボノとして実施）=現地作業延べ30h	応募者なし、里山整備メンバー、竹あかり運営補助スタッフとして 【援農/市民活動支援】

- 1 SDGs チャレンジ（1月、白浜）に参加した工大学生
- 2 SDGs チャレンジの活動風景
- 3 プロボノの成果

・域学協働の工夫！

- ★南房総市での地域活動（暮らし）や農業（生業）のリアルを知ってもらい、地域のヒトへの共感を促すことで工大学生を関係人口へと育むようなボランティアの実践と交流の場づくりを行った。
- ★ボランティア以降の工大学生なりの地域への「関わりしろ」を見つけるうえでのヒントを提供し、地域や団体・人との関係を続けるうえでの具体的な方法（貢献形態、学内カリキュラム）を紹介するようなフォローアップを丁寧に行った。
- ★各課横断型の南房総市PT会議を通じて異なる政策の視点より大学関係人口（ボランティア等）の新たな「関わりしろ」の発掘を試みた。 ex. 一般ボランティアから防災ボランティアへ

ような時代下で南房総市では、2017年に2018-2027第2次総合計画が策定され、防災・消防・救急対策の充実を図るべく多様な防災の担い手による防災体制の強化の方針が示された。さらには第2期総合戦略でも「持続可能な行政・社会システムの再構築」の基本方針のもと災害復興モデル創出にむけた調査研究の必要性が指摘されている。そのような中2021年6月、第1回目の南房総市PT会議で、市の消防防災課より防災体制の強化の一貫として大学関係人口による支援活動をより効率的・効果的なものとなるようなしくみを考えられないか、といった問題提起がなされた。その背景には、前述のような政策的な方向性に加えて令和元年9～10月の台風15号、19号被害に対する千葉工大学生教員有志（大学関係人口）延べ100名による災害復旧と災害復興支援の取り組みなどがあった。

そこで本PJでは、（それらのPT会議からの要請を受ける形で）本事業で培う南房総市と大学関係人口との「関係性」を市全体の防災教育や災害復旧・復興の支援に活かすことを目指して、①既存の地域防災の担い手を補う新たな防災の担い手としての大学関係人口の育成（ヒト育て）の手法を開発し、②災害時にも生きる大学関係人口と地域との関係構築等のしくみづくり（体制強化）を試みる、この2点を目的に据え本年度はまずその前提となる災害対応の実態調査や人材育成の要件整理のための研究をスタートした。



表-2 プロボノにいたる依頼内容とその対応

実施時期	依頼内容	プロボノでの対応
4月～5月	「GWの子供の目を絡めたPR映像を作って欲しい」【酪農の里関係者有志】	⇒「酪農の里のこいのぼり」PR映像制作【観光振興支援】 YouTube上で、鯉のぼりの設置風景から設置者の人たちや設置の工夫を紹介した唯一無二のプロモーション動画（20分程度×1本）を納品。【教員1名】
5月～7月	「コロナ禍における新規の里山体験プログラムを高校生、家族向けにアレンジしたい」【みねおかいきいき館】	⇒里山体験プログラム運営支援【市民活動支援】 昨年からの間伐した竹に複数の穴をあけて灯籠にする竹あかりづくりの体験プログラムについて、対象者をこれまでの小中学生から、高校生、一般家族向けに広げた形でのプログラムの運営を支援【学生3名、教員3名】
6月～8月	「コロナ禍の集団接種を希望する地域の高齢者が予約をとれない。インターネット予約等を使った予約支援に協力してもらいたい」【丸山在住市民等】	⇒コロナ禍集団接種希望者の予約支援【非常時対応】 インターネットを通じたコロナ禍の集団接種予約を、学生20名と教員3名からの有志と丸山地域の住民からなるチームを結成して、予約を代行する形で支援を行った。短い期間であったが、65才以上の高齢者約40人程度の予約支援ができた。【学生20名(ボランティアOB1名)、教員3名】
1月～2月	「災害時の安否確認用の地図を、情報更新とともにデジタル化した」【白浜地域づくり協議会きらり防災会】	⇒災害時安否確認用屋号マップ製作支援【防災支援】 1月実施の白浜地区におけるSDGsチャレンジで地域づくり協議会メンバーと学生ボランティアが作成しようとした「安否確認用の屋号マップ」について、実施期間中の現地調査による情報を整理し、マップ化情報をデジタル化した。【学生1名(ボランティアOB1名)、教員1名】

